

ホームページへの掲載		
済	3月1日	掲載予定

岐 阜 県 立 可 児 工 業 高 等 学 校

学 校 長 山 田 豊 和

学 校 住 所 可 児 市 中 恵 土 2358 の 1 電 話 0574-62-1185

- 1 会議の名称** 可児工業高等学校学校評議員会 (第2回)
- 2 会議の構成**
- | | | |
|-------|------------|-----------------|
| 委 員 | 千賀 昂 | 可児市中恵土自治会連合会長 |
| | 渡辺 佳照 | シンクレイヤ株式会社常務取締役 |
| | 水野 正司 | 可児市下恵土自治会連合会長 |
| | 小栗 公子 (欠席) | (有)小栗モータース取締役 |
| | 梶生 順子 (欠席) | 可児市青少年育成アドバイザー |
| | | (委員名は五十音順) |
| 学 校 側 | 山田 豊和 | 校長 |
| | 高木 良昭 | 教頭 |
| | 福井 学 | 事務長 |
| | 広瀬 和生 | 教諭 (教務主任) |
| | 鈴木 宏 | 教諭 (進路指導部長) |
| | 青山 政美 | 教諭 (工業部長) |
- 3 会議の目的** 学校が保護者や地域住民の信頼と期待に応えるためには、地域に開かれた学校づくりの推進が重要である。学校は家庭や地域にその運営方針を明らかにし、その理解と協力を得るとともに、学校外の有識者等の参加を得て、学校運営に対する幅広い意見を集約し、本校教育の一層の改善・充実を目指す。
- 4 会議の開催** 平成23年2月18日(金) 13:30~16:20 可児工業高等学校校長室
評議員3人と学校側6人が出席
会の内容
・課題研究発表会見学
・学校の現況と課題
・授業参観の感想と本校への意見や提言
・その他
- 5 会議の概要**
会議次第
- 1 校長挨拶
 - 2 出席者紹介
 - 3 22年度の報告
 - ① 22年度の主な行事
※本校の活動を新聞記事で説明
 - ② 22年度の進路の記録
 - ③ 22年度の遅刻、欠席等の記録
 - 4 意見交換

(1) 課題研究発表会見学

課題研究発表会は、1年間の課題研究のうち、各クラスより代表の1テーマを体育館で各界からの来賓とともに、評議員にも発表を聞いていただいた。

来賓は企業関係17人、学校関係6人、学校評議員3人の計26人であった。

発表されたテーマは以下の通り

- | | |
|-------------------|---------|
| ①「電気自動車の製作」 | 機械科2組 |
| ②「技能検定と高大連携」 | 機械科2組 |
| ③「乗降者カウンターの製作と制御」 | 電気システム科 |
| ④「地域とふれあう化学実験」 | 応用技術科 |
| ⑤「新聞紙による橋梁模型の製作」 | 建設工学科 |

(2) 課題研究発表会の感想や意見

意見 1 大変に立派な発表で感心した。あのように人前で発表するのは将来社会に出ていく生徒にとって、とても良い経験になると思う。また、発表態度も堂々としていた。

意見 2 教室発表の上手下手はあるが、そんなことは大した問題ではない。人前で自分の研究したことを、制限時間内にまとめて、わかりやすく説明するというところに意義がある。高校生が自信をもってやっている姿に感動した。

回答 評価をしていただきありがとうございます。課題研究は自ら課題を見つけ、その課題解決のために、筋道を立てて研究を進めることを目的としている。さらにグループ研究で、仲間と役割分担し、計画的に進めることも意義深いことである。与えられたテーマを受け身でこなすのではなく、自ら進んで研究にあたることで、確かな力がつくことを願っている。

意見 3 発表されたテーマの中で、地域との連携があったが、この地域で50年近く経過した学校として、地域に愛され、地域に知っていただく機会として、とても良いことだと思う。以前は近隣のショッピングセンターで催し物をやられたが、いろいろな機会を通して地域に発信していただきたい。

回答 今年は見本市内だけでなく、隣町の御嵩町でもいくつかの催し物から要請があり、参加させていただいた。日程等の問題がなければ、これからも参加したい。

(3) 本校への意見や提言

意見 4 毎朝、自転車通学の生徒が挨拶をしてくれている。大変にうれしいことです。特に野球部の生徒の挨拶が気持ちが良い。

回答 学校として遅刻0、挨拶には力を入れている。高校を出てすぐに社会人になっていく生徒が多い本校では、社会に出て愛されるよう、高校生のうちに、そういった社会的なマナーを教えるようにしている。

意見 5 目的意識もなく大学へ進んでも、簡単に就職できなくなっている。我が社でも大卒を受け入れているが、工業高校卒が必ずしも大卒より能力が劣るとは思わない。

意見 6 工業団地の一員として、ここに工業高校があることはとても力強い。今後も是非、地元就職をすすめていってほしい。工業団地の企業も可児工業高校に大きな期待を寄せている、今後とも協力してやっていきたい。

回答 技術が進み、学校のスタッフや設備だけでは対応できなくなっている。今年度、可児市内の企業の協力で、放課後、生徒が企業に出向き旋盤等の指導を受けた。その結果、モノづくりコンテストで好成績を修めることができた。また、昨年のおくみアカデミーに続き、岐阜女子大学とも高大連携の調印をした。このように企業や大学など外部の機関と連携して、教育効果を高めていきたい。

意見 7 地域の行事に可児工生が多く参加されることを希望する。この地域では各自治会での自主的な催しが盛んであり、そんなイベントに高校生が参加してくれるとありがたい。

回答 2月19日の可児川一斉清掃に本校から約200人が参加予定である。地域に密着した高校になるよう努力したい。

(4) その他

意見 8 マイコンカーラリーの優勝など、可児工業の活躍を注目している。がんばってもらいたい。このことで、生徒が学校に対して誇りを持つようになる。

意見 9 可児工生はみんなが明るく挨拶してくれる。このことは大事なことで続けてほしい。

6 会議のまとめ

① 今年度から評議員会は年2回になった。そのため、最初の予定と変更して、課題研究発表会を見ていただき、その後に話し合いをもつことにした。可児工業高校の教育の集大成とも言える課題研究発表会なので、学校を知っていただく良い機会だと考えた。

概ね、高い評価をいただくことができた。また、日頃から本校生を良く見ておられることもわかった。

② 企業関係の方からは企業人としての厳しくも優しい意見をいただいた。また、本校に期待されていることもわかった。工業高校ではこのような企業の立場からの意見や提言は大変にありがたいものがある。

③ 地域の方たちからは、地域との連携の要望が強かった。日程的に全ての要求には応えられないが、できる限り期待に応えられるようにしたい。